

# 期待して、いいですか

## 女性の閣僚起用、日本「躍進」

安倍改造内閣に過去最多の5人の女性が入閣した。女性の社会進出にとっては「一歩前進」。しかし過去には、男女共同参画や選択的夫婦別姓制度に反対していた顔ぶれも見える。「女性活躍」という看板は本物か。

3日午後。新聞僚が続々と首相官邸に入った。5人の女性のうち最初に姿を現したのは、法相に選ばれた松島みどり氏。高市早苗氏、小淵優子氏、山谷えり子氏と続き、最後は新設された女性活躍担当相の

有村治子氏。2人の子育て中という。「培った知恵や汗や涙の上で築いた教訓などを日本の未来につなげていきたい」と意気込んだ。

## 男女共同参画に慎重派も

列国議会同盟などの調査によると、閣僚に占める女性の割合は、改造前は18.9%だったが、39位(28%)へ浮上。スウェーデンやフランスには及ばないが、指導的地位の女性を将来的に「3割以上」にするという安倍首相の目標に近づいた。

「女性活用に前向きな姿勢を体現してくれた」と東京都の会社員金子可林さん(30)は喜ぶ。働きながら政治の世界を目指す人向けの「日本政策学校」に7月から通う。在籍者約90人のうち女性は2割。「閣僚候補になる女性議員を増やしていけない」と語った。

「問題に関心のある人たちがやりとりしているメールリスト。過去の国会質疑などが紹介されていた。有村氏は中絶や避妊に慎重な姿勢を示す。2004年の参院文教科学委員会では、厚労省所管の財団法人がつくり、避妊方法などに触れた中学生向け配布の小冊子を「ピルの奨励ではないか」と議論を呼んでいる」と問題視した。「こういう考えの政治家が本当に女性の地位向上のための政策を打ち出してくれるのか」

男女共同参画に詳しい米モンタナ州立大の山口智美准教授(46)は「産む産まないという女性の自己決定権が守られるか危うい」と指摘する。「ただ女性閣僚が増えればいいというものではない」

女性閣僚の割合は？

1位	ニカラグア	57.1%
2位	スウェーデン	56.5%
3位	フィンランド	50.0%
4位	フランス	48.6%
5位	カボベルデ ノルウェー	47.1%
39位	日本(改造後)	27.8%
124位	日本(改造前)	11.1%

列国議会同盟(I-P-U)調べ。2014年1月1日現在。日本の順位は朝日新聞が独自に算定

新閣僚の姿勢に不安を覚える人もいる。約30年間、女性の労働問題に向き合ってきた「働く女性の全国センター」副代表の伊藤みどりさん(61)はニュースを冷めた目で見た。「女性だけでなく……これまでの彼女たちの言動は、時代に逆行していることが多いのでは」

有村、山谷、高市の3氏は、男女共同参画などに反対する政治団体「日本会議」を支える議員懇談会のメンバー。有村、山谷の両氏は、2010年に日本会議が主催した選択的夫婦別姓に反対する大会に参加した。別姓で活動している高市氏は自身のホームページで「(法律で別姓を認めることには)明確に反対の立場だ」とする。制度を求めて国に提訴している富山市

の塚本協子さん(79)は「やはり、安倍さんの女友だちの内閣になりましたね」。弁護士角田由紀子さん(71)は有村氏の名を初めて聞いた。「どんな人だろう」。ちょうどパソコンにメールが届いた。ジェンダ

## 不満残っても 組織は活性化

リクルートで転職情報誌の編集長を務めるなど企業人事に詳しい人材コンサルタントの田中和彦さん。今回の改造は「さらに安定した布陣を敷く」というメッセージが込められているように見える。1年8カ月続いた組織の人事を変えるのは一時的に大きなロス。だが、メンバーが長く変わらない組織は慣れが原因で停滞を招く。順送りせずに主要閣僚を留任させ、女性の登用も進めた。入閣を待っていた男性はショックだろうし、不満もくすぶるだろうが、旧来の慣行を捨てるのは組織活性化のカンフル剤になる。